



## 4年連続「ひびきあい賞」を受賞しました

学校長 小木曾敏樹

南小学校の学校経営の重点としている柱の一つに、「人権教育」があります。校内でのいじめ、差別はもちろんのこと、自他の命の大切さ、偏見や間違った認識の是正、やさしさやいたわる心の醸成、人や社会のために努力する行動力の育成、こういった人間力の育成をも含めた「人権教育」を大切にしたいと考えてきました。

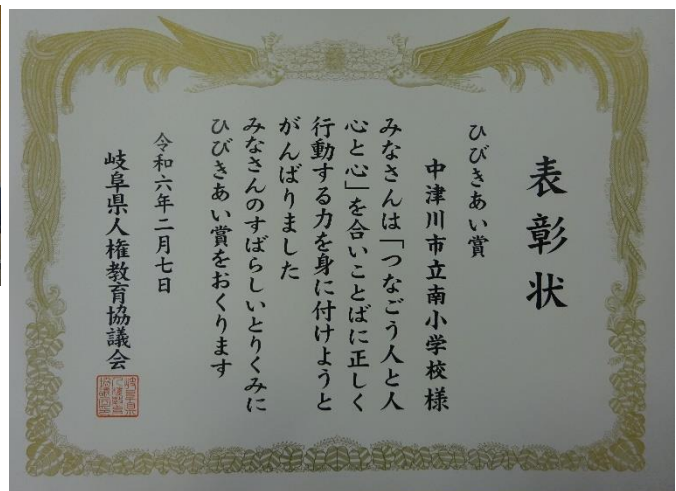
この賞は、いじめや差別が起きない学校、少ない学校に贈られる賞ではありません。いじめや差別が起きなくなるように、正しい人権感覚を身につけられるように、どんな教育を、どんな活動をしてきたかが評価される賞です。

どの学校でも行っている人権集会はもちろんのこと、お昼の放送で流れる「グッドレポート」（全校でのよいところ見つけ）、挨拶運動、異学年グループによる活動、人間関係づくりのエンカウンター、昨年は「チクチク言葉の封印」、今年は「服のカプロジェクト」、各学級で行われているよいところ見つけなど、特別な活動だけでなく日常生活の中に人権にかかわる教育的活動が定着していることが評価されたのではないかと考えています。児童会の子どもたちや6年生を中心に、子どもたちとともにみんなでいい学校を作っていこうという思いが行動になり、受賞につながっているのだと思います。

数百人の子どもたちが生活する学校です。トラブルや間違いは起こりうるものです。何も起こらない方がもちろんいいのですが、それをよりよく解決したり、周りが同調しなかったり、周りが見逃さなかったり、素直に非を認めあったり、そういうところに学校教育の成果が表れてくるのではないかと思います。

4年前は、新型コロナによる学校閉鎖で4月が始まり、目に見えない恐怖や不安と子どもたちは戦っていたことと思います。コロナに起因するいじめや差別が起こらないようにと、そんなことも考えながら学校経営の柱に置いた人権教育でしたが、それから4年間、職員と子どもたちとで取り組んできた活動が、毎年評価していただいたことをうれしく思います。

「いじめ・差別のない学校」と胸をはって言えるよう、これからも南小学校は、「人権教育」に関わる活動を継続していきます。19日の集会で児童に報告する予定です。



### 3.11 14時46分 全校児童で黙とうを

13年前の3月11日に起きた東日本大震災。犠牲になられた方々に哀悼の意を表すための黙とうを、市のサイレンに合わせて行いました。事前にどんな地震で何が起こり、どれだけの人が犠牲になり、現在も行方不明、帰宅困難など震災は終わっていないという学習を、各学年で行いました。

サイレンが鳴ると、1年生から6年生まで、各教室では目を閉じて下を向いたり、手を合わせたりして、誰一人ふざけることもなく、サイレンが鳴り続けている時間いっぱい、真剣に祈りをささげていました。



### 全校児童・教職員に事前予告なしの訓練実施

雨や雪などの天候不良で何度も延期してきた「命を守る訓練」を、3月13日に実施しました。大地震・火災を想定した3回目の避難訓練です。毎年、そして、毎回、難易度をグレードアップさせ実施してきました。今回は、全校児童はもちろんのこと、教職員にも事前予告なしで突然の「緊急地震速報」。障害物、通れない通路、出られない出口などを設定しました。子どもたちがどのように臨機応変に、自分たちで考え判断するかが課題です。教職員には、本部、救護、搜索などの役割が与えられていますが、それが突然の訓練で実際に機能するのか、安全に効率的に動くことができるのかを検証してみました。

放送で流した「緊急地震速報」の音が小さかったのですが、1年生の1クラスは気付いた子が、「地震だよ!」「地震だよ!」とみんなに声をかけ、教師が指示を出す前に机の下に身を隠していました。

他の学年も、訓練なのか本当の「緊急地震速報」なのか分からないまま、素早く身を隠し、放送の指示に従って避難しました。階段では慌てることなく冷静に移動できました。

封鎖された児童昇降口の情報は、教員から教員に伝言され、違う避難経路を指示し、非常階段に向かったり、1年生教室のドアから非難をしたりしていました。

グラウンドに出ると、どこからか「走って!」「走って!」という大きな声がしました。教員の声ではない。子どもたち同士で呼びかけたのでしょうか。「おさない、走らない、しゃべらない」の原則をくずした訳です。振り返りの会の時に、これをほめました。自分と仲間の命を守るために、「走る」「しゃべる」ことはある。その判断は正しいと。

毎年レベルアップしてきたこの訓練、問題点を見つけることが難しくなってきました。予告なしでも高いレベルの避難行動ができます。次はどんな訓練にするかじっくり考えます。

